

酒米品種 ‘吟の夢’ の栽培特性改善に向けて

表 ‘吟の夢’ および ‘たちはるか’ の早晚性、草姿、諸特性

品種	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (mm)	穂数 (本/㎡)	収量 (g/㎡)	草型	耐倒 伏性	穂発 芽性	脱粒性	いもち病 抵抗性
吟の夢	8/10	9/16	86	202	426	511	偏穂数	中	中	やや易	やや弱
たちはるか	8/24	10/8	85	210	429	610	偏穂重	強	中	難	強

注) 農業技術センターにおける2016～17年の6月上旬移植した試験結果および育成地情報から作成。



写真 稚苗におけるいもち病発生程度の違い

本県で生産される酒造好適米の9割を占める‘吟の夢’は、酒造適性は優れるものの、いもち病に弱く、倒伏しやすいなど栽培特性が劣ります。そこで、さらなる酒造好適米の生産拡大を図るため、‘吟の夢’の栽培特性を改善した新しい酒造好適米品種の育成に取り組んでいます。

育成過程では、まず、いもち病抵抗性を有し、多収で倒伏・脱粒しにくい優れた栽培特性を持つ‘たちはるか’と‘吟の夢’を交配し、‘吟の夢’の酒造適性を受け継ぐために、さらにその雑種後代に繰り返し‘吟の夢’を交配する戻し交配育種法を用

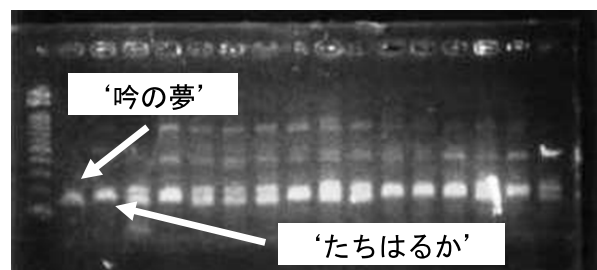


写真 DNA マーカーを用いた選抜の様子

注) DNA マーカーとは、DNA 塩基配列の品種間の違いを識別する目印。DNA マーカーによって、特定の遺伝子を持つかどうか検定できる。今回の場合は、二本バンドのものがいもち病抵抗性遺伝子を持つ個体。左から3、5、6、7、9、10、14、16番目の個体が二本バンドを持つ。

いています。また、‘たちはるか’の持ついもち病抵抗性を効率的に導入するために、煩雑な検定を省略できるDNAマーカーも活用しています。

現在、‘吟の夢’と‘たちはるか’の雑種第一代(F1)に、‘吟の夢’を3回戻し交配した世代が得られています。今後は、引き続き‘吟の夢’との戻し交配を繰り返すとともに、戻し交配で得られた世代を蒔培養により早期に固定化して、有望系統の作出を試みます。なお、2019年から固定化された系統の比較試験を行う予定です。(水田作物担当 赤木浩介 088-863-4916)

高知県農業技術センターニュース 第95号 平成30年3月25日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 石本 周平

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>